

高尾山参道周辺地区 (仮称)案内川左岸広場 を考える 第2号

かわら版

このかわら版は、案内川左岸広場の整備に向けた取り組みをお知らせするために、八王子市が発行しています。

第3回、第4回ワーキンググループを開催しました！



議論している様子

案内川左岸広場の整備の具体化に向けて、10月8日(火)に第3回、12月10日(火)に第4回の水辺広場利活用ワーキンググループを開催しました。

ワーキンググループでは、地域全体のまちづくりとして目指していることや広場整備を通じて実現したいことなど、広場整備の基本的な考え方を振り返りながら、広場整備イメージについて意見交換を行いました。

広場の模型やイメージスケッチなどの活用により、具体的な整備イメージを参加者全員で共有したことで、整備の方向性について、活発な意見交換がなされました。また、検討課題を抽出するなど、一つ一つ丹念な議論がなされました。

広場整備の基本的な考え方

■高尾山口駅周辺全体で目指していること

地区の将来像

高尾山の自然と歴史文化を守り活かし、観光交流と暮らしが調和するまち

- 人口減少、少子高齢化 → 住みたい・訪れたい環境をつくりたい
- 地域コミュニティの維持向上 → 交流の場をつくりたい
- 自然保護、住環境、観光振興 → 色々な人が活躍できる場にしたい
- 行動ルートの固定化 → 混雑や回遊性不足を解消したい
- 滞在時間が短い → 心地よい時間を過ごせる場にしたい

*高尾山口駅周辺地区都市計画方針
(平成28年(2016年)3月)より

■広場整備を通じて実現したいこと



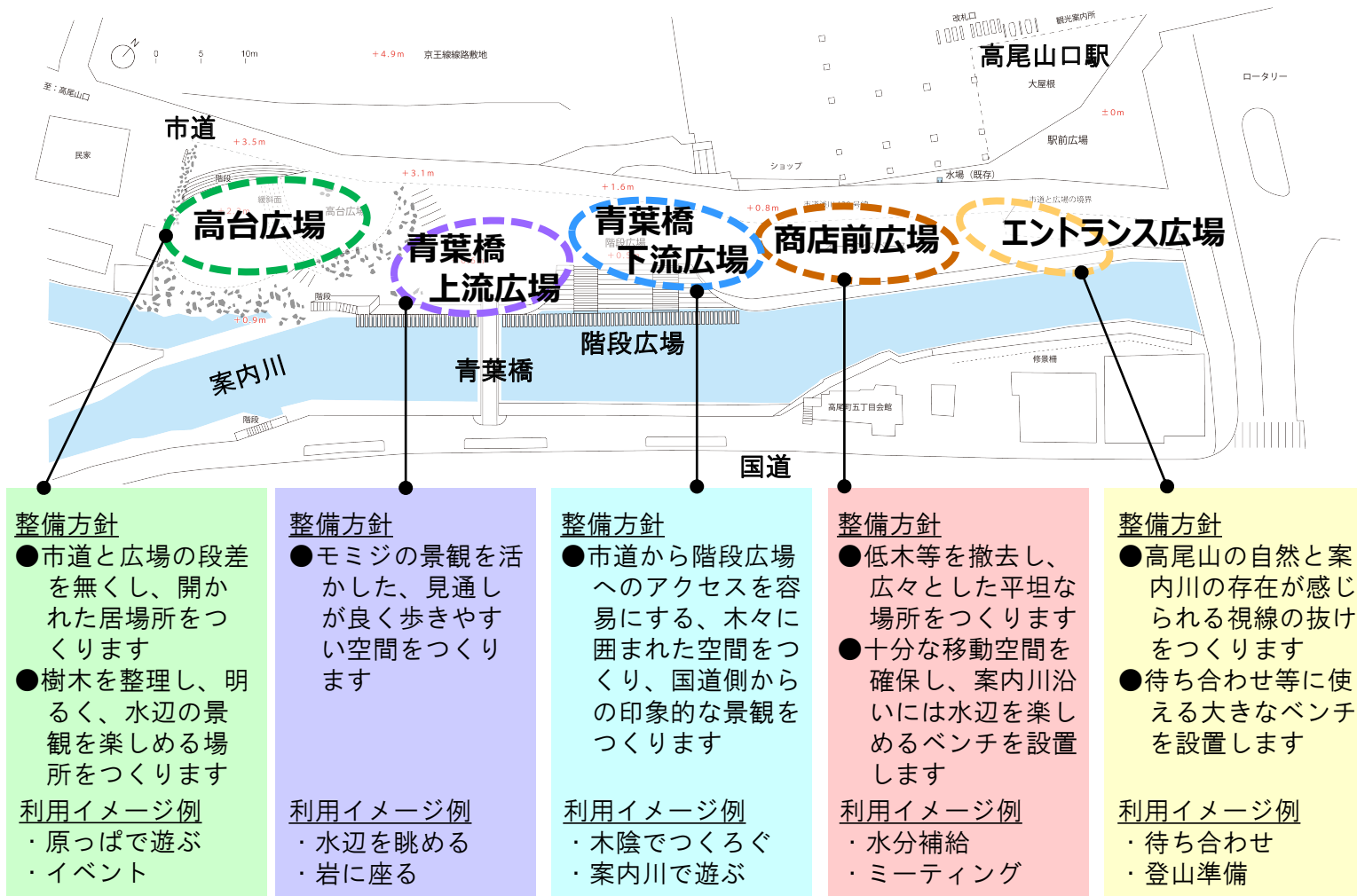
- 家族連れがのんびりできる癒しの場を増やしたい
- 地元住民と来訪者がくつろいだり、交流できる場にしたい
- 案内川を活用して、閑散期に人を呼び込みたい
- 地元住民と来訪者の動線を分散させ、回遊行動を増やしたい
- 案内川を活用して滞在時間を延ばしたい
- 高尾山の魅力発信をしていきたい

*高尾山口駅前ふもと公共空間形成・活用ワークショップ、高尾山口駅前水辺広場利活用ワーキンググループより

▶ 裏面もご覧ください(ワーキンググループの報告など)

地域の自然と人の営みを活かした広場のデザイン

- 案内川にアクセスしやすく、まちから水辺が感じられる広場をつくります
- 地元住民と観光客の動線をゆるやかに分け、色々な目的で訪れる人が気持ちよく過ごせる居場所をつくります
- 高尾山へのスムーズな移動を促すサインや動線をつくります
- 様々な活動がしやすく、高尾山らしさが感じられる個性的で美しい広場をつくります



第3回、第4回ワーキンググループでの主な意見と次回以降の検討事項

全体	樹木、緑	飛び石	動線	サイン	テーブル・ベンチ
○整備案は議論した意見が概ね反映されており良い ■整備案をベースに検討を深める	○木陰空間創出のため、新たに植樹する ■管理面も踏まえ、樹木の伐採等を考える ■広場周辺も踏まえた緑化を検討する	○子供達が遊んでいるイメージを持てる ○増水時に流される恐れがあり、設置は控えた方が良い	○滞留空間が今よりも多くなり、歩行者が歩きやすくなる	○小さいマップ等、シンプルで良い ○高尾山ルールや季節情報を発信したい ■高尾山に来た！と写真を撮りたくなる物を検討する	○駅前の大型のベンチはインパクトがあり、使いやすいそう ■維持管理の頻度や体制等も踏まえ、検討する
喫煙所	水場	遊具	照明	収益施設	青葉橋
○煙草を吸える場をつくれな - い	○水場はニーズがあり、つくることは良い ○複数設置できると良い ■冬の凍結対策は検討した方がよい	○高台広場は遊具等の人工物は設置せず、自然に遊べる場が良い ■大きな岩を置くイメージは良いが、範囲などを検討する	○夜間は暗く、防犯上の死角を少なくしたい ■照明の時間、明るさ、演出などについて検討する	○露店を出すようなことはやめたい ○これまでの地域の取組を踏まえ、設置しない	○幅員も狭く、再整備した方がよい ■デザインや小幅員、バリアフリー未対応等を踏まえ、将来的な再整備が必要である

凡例

○：主な意見

■：次回以降の検討事項

水辺広場利活用ワーキンググループの進め方